

第5学年 社会科学学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日（金） 4校時

2. 単元名 「これからの食料生産と食生活」（全11時間 本時8時間目）

3. 単元目標

- ・我が国の食生活を支える食料の中には、外国から輸入しているものがあることについて調べ、それらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解するとともに、我が国の食料生産や食生活の将来的な在り方について考えようとする。
- ・我が国の食料輸入や食生活の現状について、調査したり資料を活用して調べたりする活動を通して、我が国の食料生産や食生活の問題点を見だし、それらの将来的な在り方について考えたことを適切に表現する。

4. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
○学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

（1）児童の実態

＜5年生の子どもたち＞

全体的に素直で明るい子どもが多く、高学年として意欲的に生活を送っている。よいことに進んで取り組もうとする姿勢も感じられる。一方で、自分中心に物事を考え、後先を考えず行動に移し、思いやりに欠ける言動で相手を傷つけてしまうなど、他者意識をもてない子どもがいる。また、友だちとの関わりに苦手意識をもち、不安を感じやすい子どももいる。子どもたちのよいところを認め、自信をもって過ごせるように声をかけ、**子どもたち同士が互いを思いやり、みんなが安心して過ごせる学級、楽しいと思える学級、認め合える学級**に向けて指導を重ねている。

大部分の子どもたちは、落ち着いてまじめに学習に取り組むことができている。好奇心も旺盛で、実際に体験するなど、活動的な内容を好んでいる。授業中の発言は、答えが明らかなものには意欲的だが、自分の考えを述べたり、説明をしたりという場面になると少なくなり、固定化しがちである。また、その場限りの思いつきの発言も多く、言葉や文章・資料等から深い読み取りをしたり、友だちの発言の意図を理解した上で自分の意見を言ったりすることは十分であるとは言えない。学習課題や家庭学習等に取り組む姿勢にも個人差がある。地道な努力の積み重ねや丁寧に取り組むことの大切さを指導している。

＜聴く・話すについての指導＞

「聴く」については、教師の発問や友だちの考えに対して黙って聴いているだけでなく、自分の考えと比べながら聴き、わからないことを聞き返し、思ったことを伝えるよう促し、聴くことの大切さを指導してきた。友だちの考えに対する相づちやよいつづやきを取り上げ、褒めていくことで、反応できる子どもが増えてきた。また、自分の考えと比べながら友だちの考えを聴くことによって、考えが深まったり、新たな考えが生まれたり、考えが変わったりする経験を通し、聴くことのよさを感じられるようにしたいと思っている。

「話す」については、考える時間を十分確保し、まずは自分なりの考えをもつことの大切さを伝えてきた。話の流れを考えて発言や質問をすることができるようになっていきたいと考えている。また話し手として、どの言葉を使えばよいのか、どのように順序立てて相手に伝えればよいのか考えながら話ができるように、指導を重ねている。

学習活動をはじめ、学校生活の様々な場面で、「聴く・話す」を意識した活動を取り入れている。伝え合うことによって考えが深まったり、変わったりする経験ができるようにし、話し合うことのよさを感じられるようにしたい。また、ペアトークやグループトーク、学級での話し合いなど、必要に応じて表現する場を工夫している。**相手意識をもった「聴く・話す」活動にしていくなかで、聴くことのよさを味わうとともに、自分の話を聴いてもらえる心地よさを実感できるようにしてきた。**

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

わからないことをペアやグループで教え合い、友だちの意見がわかりにくかったときには言い換えることで、関わり合いが見られるようになってきた。友だちの考えの中で大切に思ったことをノートに書き留める子どもも増えてきた。しかし、全体での話し合いでは、話し手の相手意識や聴き手の受容的・共感的姿勢にまだまだ課題がある。相手意識をもって話したり、友だちの意見につなげて考えたりできるようになってきたが、ひびき合いには至っていないのが現状である。代表委員会の議題、クラスイベントや総合的な学習の時間の活動内容などについては、活発な話し合いになることが多い。自分の生活に関係する事柄や興味がある話題に対しては、進んで話し合い、相手の話を聴き自分の考えを深めることができる。学習の場面においては、賛成・反対などの意見が分かれるような問題や、正解が誰も分からないような問題などに出会った時には、積極的な話し合いとなり、普段は控えめな子ども前向きに参加できる。**意欲的に関わり合える問題を学習場面で設定することにより、話し合ったことが自分の思いを強めたり、考えを深めたりするひびき合いの姿をめざしたい。**

(2) 単元と指導

<単元について>

本単元は、学習指導要領5年生の内容(2)のイ(ア)「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。」に基づいて設定されており、米作り・水産業など我が国の食料生産に関する学習のまとめにあたる。私たちの現在の豊かな食生活を考えたときに、食料の多くを輸入に頼っている現状にある。食料自給率は長期的に低下傾向で推移しており、昨年度は37%と過去最低に並んだ。今後、世界的に人口が増えて生産が追いつかなくなったり、外国の経済事情や輸送の障害で輸入できなくなったり、地球温暖化や異常気象で収穫量が減ってしまったりするなど、何かしらの理由で外国から輸入ができなくなると日本国民の食生活は大きな影響を受けてしまう。こうした日本の食料生産に関する様々な問題を知り、一消費者として食料生産に関して考えていく必要がある。

児童はこれまでに学習した「わたしたちの食生活と米作り」「わたしたちの食生活と水産業」の単元で具体的な事例を通して、我が国の食料生産の様子や特色を学習してきた。米の生産や水産業が国民の食生活を支えていることや、従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについても理解している。また、米の生産量や消費量の減少、それに伴う従事者の減少や耕作放棄地の増加などの問題点についても学んでいる。そこで本単元では、生産者と消費者のつながりの大切さを理解し、これからの食料生産の在り方を考えられるようにしたい。児童にとって、輸入に頼っている日本の食料生産の現状を捉え食料自給率について考えていくのは難しく、自分事として捉えにくい問題である。しかし、日本の現状や世界の状況をグラフや資料などから読み取ることで、食料生産が自分たちの問題であることをしっかりと捉えられるようにしていきたい。そして、**消費者として食に対して少しでも意識を変えていけるようにし、今後様々な社会問題も含めて自分たちの食生活について考えていくきっかけとなるように考えた。**

<指導について>

児童は豊かな食生活を送っており、今後食生活に関して困ることが起きるとは想像もしていない。そんな児童が、普段食べているものの産地を調べることをきっかけに、日本が食料の多くを輸入に頼っている現状に気付けるようにする。また、食料自給率が低下傾向にあることも示していく。日本の外国への依存度の高さについて問題意識をもち、「このまま輸入し続けていいのかな」「食料自給率は上げた方がいいのかな」という問題にたどり着き、考えていこう。その中で、輸入が止まり食料不足になる可能性があることや輸入食料の輸送により地球環境に負荷をかけている現状等から、少しでも食料自給率を上げていくことが必要だと感じるだろう。日本の食料自給率については、全員が共通理解をもって話し合いに参加できるよう、グラフ・資料を精選し活用しておさえていく。

ここでの子どもが解決したい問題は「食料自給率を上げていくにはどうしたらいいのかな？」である。食料生産に関わる現状を知り、食料自給率を上げていく必要性を感じた児童は、そのための方法について考えようとするだろう。そして、「みんなはどんな考えをもっているのだろう。」「少しでも食料自給率を上げていくには、他にどんな手立てがあるのだろう。」という思いが生まれると考える。友だちの意見を「どうしてそう考えたのか。」と考えながら聴くことで、「なるほど。」と納得したり、「でも、自分だったらこうだよ。」と別の視点の考えをもったりするだろう。難しい問題だからこそ、一人では得ることの出来ない学び合いからの充実感を味わうことができると考える。一人ひとりがしっかりと考えをもてるよう、資料・グラフを用意し、前の時間までに自分の考えを練る時間を十分にとると同時に、資料の読み取りが苦手な児童については、個別に声をかけていく。児童の考えは主に、消費者の立場・生産者の立場によるものに分かれると考える。消費者の立場として出された考えを実際に誰がしていくべきなのか捉え直すことにより、客観的な視点から、自分自身ができることに考えを焦点化していきたい。

本時では、食料自給率を上げるためにはどうすればよいか、話し合うことを通して、これからの食料生産や食生活のあり方についての考えを深めていく姿をひびき合いの姿とする。この学習を通して、一人ひとりの行動や意識の変化が消費を拡大させ、食料自給率を上げていくための力になるという思いをもてるようにしたい。消費することも生産することもどちらも大切であり、自分で行動できることもあると気づき、少しでも食に対する意識を変えていきたいと考える。

単元構想 5年 社会科 「これからの食料生産と食生活」

単元目標

- ・我が国の食生活を支える食料の中には、外国から輸入しているものがあることについて調べ、それらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解するとともに、我が国の食料生産や食生活の将来的な在り方について考えようとする。
- ・我が国の食料輸入や食生活の現状について、調査したり資料を活用して調べたりする活動を通して、我が国の食料生産や食生活の問題点を見だし、それらの将来的な在り方について考えたことを適切に表現する。

既習事項

農業（米作り） 水産業 日本の農業や水産業に対する誇り
生産者の努力や工夫により様々な食料が生産されている 国民の食生活を支えてくれている
土地の自然条件や特色を生かしている 時代とともに変化してきている
かわる人たちには苦労や悩みもあった 外国から輸入されているものも増えている

・実際に食べているお米や魚はどこ産のものかな？

普段食べているお米や魚の産地はどこかな？①

・調べてみよう ・家で聞いてみるよ ・給食で産地のお知らせしているよね ・淳子先生に聞いてみよう

- ・お米は国産だね ・給食も国産が多いんだって
- ・他の食べ物はどんなのかな ・魚・肉・野菜は国産も外国産もある
- ・国産が多いんじゃない？ ・外国産の食べ物をよく見かけるよ ・外食は外国産が多そう

産地調べを意欲的に行い、食生活や食料の輸入について関心をもつ。【関】

日本は食料をどれくらい輸入しているのかな？②

- ・日本の食料自給率は低いね ・身の回りにはたくさんの外国産の商品が売られているよね ・どんなものを輸入しているのかな
- ・こんなに輸入に頼っているんだ ・どうして輸入が多いんだろう ・なんで食料自給率が低いのかな
- ・日本は多くの食料を外国から輸入しているんだな ・どうして輸入しなくちゃいけないの ・輸出はどうなってるのかな
- ・日本の生産者（農家の人や漁師）は工夫や努力をしているのに

- ・他の国ではどうなんだろう ・こんなに輸入していて大丈夫？
- ・いつから低いんだろう ・輸入がなくなると
- ・輸入が増えた原因はなんだろう 食べ物がなくなって困る

日本の食料自給率 37% 他国との比較資料・食料自給率の経年グラフ の資料を提示し、食べ物の多くを輸入に頼っている現状や食料自給率の推移についての状況を知る

なんで食料自給率はこんなに低くなったんだろう？③

- ・お米以外の主食が増えたからじゃない？ ・和食以外の食事も多いね ・洋食や中華をよく食べるよ
- ・食生活が変わって、国産のものだけじゃ無理になったんだ
- ・人口が増えて、国内じゃ作りきれなくなったのかな
- ・農家の人や漁師さんが減っているって学習したね
- ・農地が減っている ・食品ロスも原因の1つなんだ
- ・このままだと輸入がもっと増えていきそうだね ・放置されている農地もある
- ・輸入が進んでいくと、どうなるんだろう ・このままで大丈夫かな？

我が国の食料の外国への依存度の高さについて、食生活の変化と関連づけて考えることができる。【思】

日本はこのまま輸入し続けていいのかな？④⑤

(調べる → 考えをもつ・練る → 交流する)

- ・食料の中には外国から輸入しているものが国民の食生活を支えているものもある
- ・輸入はなくせないよ
- ・輸入は必要
- ・輸入食材のおかげで現在の自分たちの豊かな食生活が成り立っている
- ・外国から輸入した食べ物は国産より安いよ
- ・国産のものが売れなくなったら、農家の人や漁師さんは困るね
- ・食の安全性のことがニュースになっていたよ
- ・安全性が心配になるね
- ・世界の人口が増えているから足りなくなるよ
- ・輸入が止まる可能性もあるみたいだよ
- ・相手の国にとってはどうかな
- ・輸入がなくなったら相手の国は収入がなくなる
- ・お互いの国のことを考えないといけないよ
- ・食料自給率を上げないといけないと思う

・輸入をなくせば食料自給率が上がるよ

・輸入による排出ガスが心配

食料自給率は上げた方がいいのかな？⑥

上げるべき

なければいけないの？

- ・輸入には、いろいろな心配事があるから食料自給率を上げた方がいいよ
- △食料自給率をあげるのは難しいよ
- ・国産のものが増えれば、生産者の人が助かる
- △外国産をゼロにはできない
- △国産の方が高いから、買うときに選ぶかな
- ・国産のものが増えれば安心して食べることができる
- △今の食生活を変えていくことってできるかな
- ・輸入が減ると、輸送で出るガスが減るから地球環境にもいいよ
- ・食料自給率をこれ以上減らしちゃだめ
- △上げなくてもよい
- ・今の生活に困っていないから大丈夫だよ
- ・全く輸入に頼らないんじゃないかって、少しずつでも上げていけるといい
- ・食料自給率を上げていくことは必要だね
- ・どうしたら少しでも食料自給率が上がるかな

我が国の輸入の現状について、必要な資料を集めて読み取り、まとめることができる。【技】

我が国の食料の輸入が、国民の食料を確保する重要な役割を果たしている一方で、重大な課題にもなっていることを理解する。【知】

食料自給率を上げていくにはどうしたらいいのかな？⑦⑧ (本時)

(考えをもつ・練る → 交流する)

消費者の立場

- ・国産のものを買う
- △輸入じゃなきゃ食べられないものもあるよ
- △国産は高いよ
- ・和食を増やす
- △洋食を減らすのはやだな

生産者の立場

- ・農地を増やす
- ・耕地放棄地を使う
- ・農家を増やす
- △今から増やすことができるかな
- ・農業のよさを伝える
- ・えさを国産にする

- ・米や米粉を使う
- ・産地を意識して買う
- ・地産地消を意識する
- ・食生活を少しずつ変えていく

「実際に誰が
やっていくの？」

今の自分や将来の自分にできること

- ・消費者として、産地を気にして買ったり食べたりしたい
- ・地元のものをたくさん食べたい
- ・食べ物を大切にして食べたい

食料自給率を上げるための方法について話し合うことを通して、これからの食料生産や食生活の在り方についての考えを深めている。【思】

- ・給食は食料自給率が高いけどなんでだろう？
- ・他にできることはあるかな？
- ・JAの人や栄養教諭の先生に聞いてみよう

食料自給率を上げていくにはどうしたらいいのか聞いてみよう⑨

栄養教諭の話 を聞き、給食でできるだけ国産のものを使っていることや理由を知る

JAの人の話 を聞き、消費者として意識できることについて知る

- ・日本は輸入に頼っているわりに、無駄になっている食料も多いみたいだよ
- ・世界には食料不足の国もあるみたい
- ・食に関わることにについて、もっと知りたいな

食料生産と食生活のことについてもっと調べよう⑩⑪

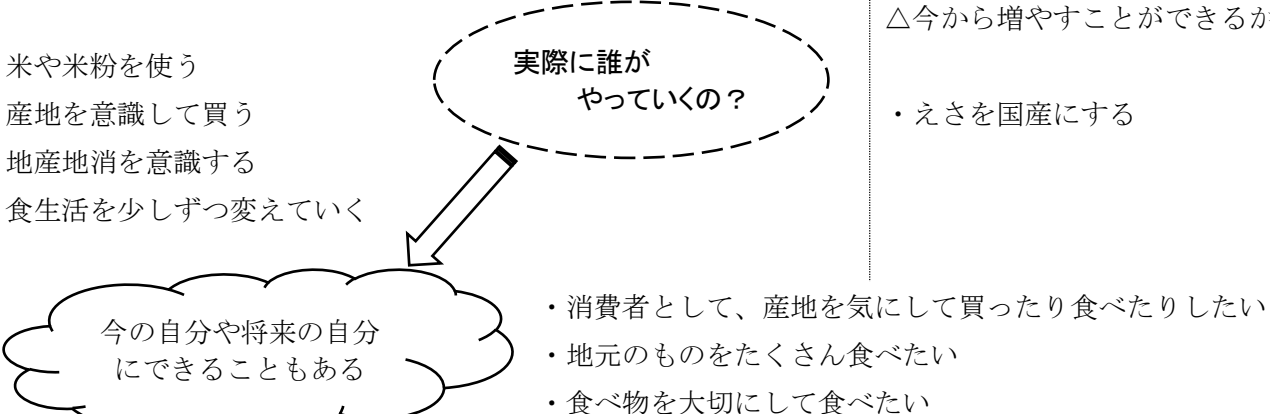
- ・輸出はどうなっているのかな？
- ・TPPの問題ってなんだろう
- ・食品ロスについて
- ・世界の食料不足

食料生産と食生活に関わる問題について、これまでの学習をふまえて、さらに調べて話し合い、考えを広げたり、深めたりしている。【思】

本時について

- (1) 本時目標 食料自給率を上げるためにはどうすればよいか、友達と話し合うことを通して、これからの食料生産や食生活の在り方についての考えを深めることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
食料自給率をあげていくにはどうしたらいいのかな？ 消費者の立場 ・国産のものを買う △輸入じゃなきゃ食べられないものもあるよ ・和食を増やす △洋食を減らすのはやだな ・米や米粉を使う ・産地を意識して買う ・地産地消を意識する ・食生活を少しずつ変えていく 生産者の立場 ・農地を増やす ・耕地放棄地を使う ・農家を増やす ・農業のよさを伝える △今から増やすことができるかな ・えさを国産にする  給食は食料自給率が高いけどなんでだろう？ 他にできることはあるかな？ 栄養教諭の先生や JA の人に聞いてみよう	・本時の問いを確認し、食料自給率を上げることにしながら考えなのか意識して話し合いに参加できるようにする。 ・本時まで、食料自給率を上げていくための方法について考えをもっている。自分が考えなかった方法について互いに理解し合えるよう、意見をつなげていけるようにする。 ・分かりにくい意見については、質問をしたり、教え合ったりしながら進められるようにする。 ・発言がない児童には、意図的に指名し、自分の考えを出せるようにする。 ・「消費者」と「生産者」の立場に分けて板書し、考えを視覚的に整理できるようにする。 ・消費者の立場として出された考えを「実際に誰がしていくべきなのか」捉え直すことにより、自分自身ができることに考えを焦点化する。 ・消費も生産もどちらも大切で、その中には自分で行動できるものもあることに気付けるようにする。 ◆食料自給率を上げるための方法について話し合うことを通して、これからの食料生産や食生活の在り方についての考えを深めている。【思考・判断】